

# 東京圏の都市鉄道において今後特に対応が必要な課題

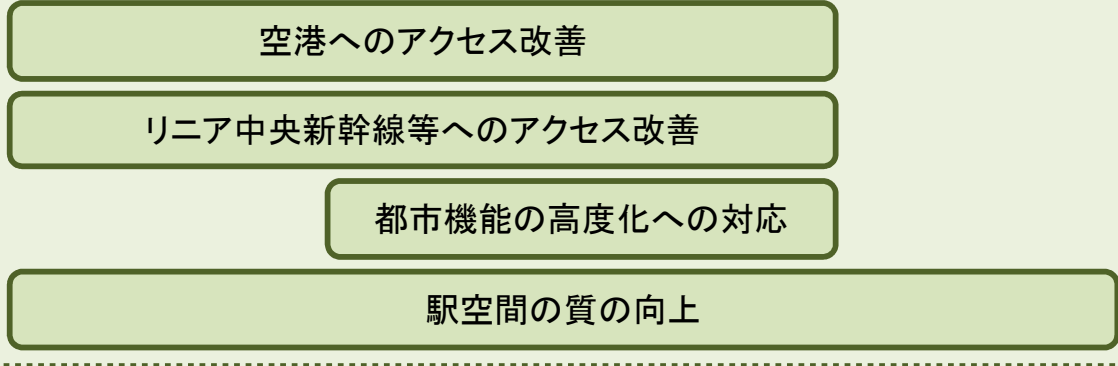
資料3-2

A. 豊かな国民生活に資する  
使いやすい東京圏の都市  
鉄道の実現

B. 国際競争力の強化に資  
する東京圏の都市鉄道  
ネットワークの構築

C. 持続可能で安心・安全  
な東京圏の都市鉄道に  
向けた基盤づくり

## <重要性が特に増大している課題>



列車遅延への対応

外国人の利用のしやすさの向上

災害対策

低炭素化、省エネ化等の推進

## <今後も継続して対応が必要な課題>

シームレス化

混雑の緩和

速達性の向上

バリアフリー化・  
ユニバーサルデザイン化

バリアフリー化・  
ユニバーサルデザイン化

## 施策の推進に当たって特に留意すべき事項

- ①適切な「見える化」やフォローアップを行いつつ、国民・利用者の視点に立って交通に関する施策を講ずる
- ②国、自治体、事業者、利用者、地域住民等の関係者が責務・役割を担いつつ連携・協働する
- ③ICT等による情報の活用をはじめとして、技術革新によるイノベーションを進める
- ④2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催とその後を見据えた取組を進める

(※) <東京圏を取り巻く社会経済情勢等>

### 地方創生と東京圏の位置づけ

○東京一極集中の是正を図ると同時に、東京圏は国際競争力を維持できるように引き続き日本経済をけん引していくことが必要。

### 国土の基本構想 —「対流促進型国土」の形成—

○多様な個性を持つ様々な地域が相互に連携して生じる地域間のヒト、モノ、カネ、情報の双方向の活発な流れである「対流」を全国各地でダイナミックに湧き起こし、イノベーションの創出を促す「対流促進型国土」の形成を図る。

### 首都圏の圏域整備の方向性

- 三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ、リニア中央新幹線により一体化し、イノベーションを創出するスーパー・メガリージョンの形成を推進。
- 面的な新しい対流を生み出すことで、一極集中型の首都圏を対流型首都圏に転換していくことが必要。
- 各地に生活サービス機能や個性ある産業等の拠点を形成し、それらをネットワークでつなぐ、重層的かつ強靱な首都圏版「コンパクト+ネットワーク」を構築することが必要。
- 国家戦略特区等を活用した産業の集積や魅力的な都市整備を行う。

(※)「国土のグランドデザイン」、「国土形成計画(全国計画)」、「首都圏広域地方計画(中間整理)」、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」等において位置づけ。